２０２３年６月20日第31号（通巻37号）
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通１０１－４５３
tel/fax;072-737-9454
mail; olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
facebook;oribunokai

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

ビンサルマン皇太子とシリアのアサド大統領

中東において、米国は、影響力を失い、イスラエルは孤立を深めることになった。トランプ政権にはじまったイスラエルとアラブの「正常化」の流れは、イランとサウジの関係の正常化の前に意味を失うことになった。
その結果、サウジアラビアをつなぎとめるために米国のサウジアラビア詣でがつづいている。米国とサウジは、昨年のバイデン米大統領のサウジ訪問で、サウジに石油の増産をもとめたが、サウジはOPEC各国とともに、石油の減産に踏み切った。また、米国がもとめるイスラエルとの関係正常化にも条件を付けて踏み込まなかった。そして、バイデン米大統領のあとにサウジを訪問した習近平国家主席に対して、バイデンに見せなかった最大級の歓迎を行った。そして、今回のサウジとイランとの中国を仲介とする和解にすすみ、イエメン戦争など地域の対立矛盾を米国抜きで解決する方向に向かい、米国が反対していたシリアのアラブ連盟の復帰で、シリア内戦をめぐって敵対的な関係に終止符を打った。また、カタールとの関係を修復し、米国、イスラエルの介入なしに、地域の安定を作り出している。イスラエルと米国が企てた反イランの軍事同盟の必要性はなくなった。

もうひとつの大きな問題は、サウジは、イスラエルとの正常化の条件として、サウジの核保有を求めており、これには、イスラエル、米国ともに反対している。中東における唯一の核保有国の地位を守るために、これまでも、イラク、シリアの核開発を軍事攻撃によって、押しとどめてきた。そして、イランの核開発を阻止するために、軍事攻撃を辞さない考えを示し、イランの国内でのテロ活動を行っていた。そして、イランの脅威を口実として、湾岸諸国をはじめとするアラブとの正常化をすすめてきた。事実、シーア派のイランとスンニー派の盟主であるサウジは、対立し、その代理戦争ともいえるイエメン戦争が起こっていた。

サウジも、イラク、シリア同様に核を保有しようとしてきて、米国に原子力発電所の建設を要求し、また、米国が、それを飲まない時には、核保有国であるパキスタンとの共同しようとしていた経緯がある。

今回は、 ニューヨーク・タイムズ紙によれば、核開発についてサウジアラビアは米国と協議を続けているが、米国が核不拡散の見地からウラン濃縮などを禁じようとしているのをサウジ側が受け入れないので協議はまとまっておらず、しびれを切らしたサウジ側は中国に協力を求めようとしているといわれている。長年サウジは米国に対して核開発を支援するよう要求しているが、そのために必要な原子力協定締結の協議は、主にサウジ側が核兵器の開発を阻止するための条件を呑まないために遅延してきた。協議が進まない事を不満に思うサウジ政府関係者は、中国、ロシア、さらに米国の同盟国を含む他の諸国との協力を追求すると同時に、米国が原子炉を

建設するなどの見返りとしてイスラエルとの関係正常化を材料に米国に対して圧力を掛けていた。

当然、これは、米国だけでなく、中東における唯一の核保有国でありたい、イスラエルにとっては、新たな脅威が作り出されるだけであり、到底認めることはないだろう。

その結果、中国の仲介でのイランとの和解を受け入れ、また、中東でのイランとの確執で起こっていた紛争を解決する方向に向かい、シリアなどの敵対していた諸国とも和解し、中東の安定を、サウジを軸に作り出す方向に動いている。その結果、イスラエルに打撃を与えている。

また、5 月 31 日の報道で、UAE は、米国が主導する中東の海上安全保障の枠組みから 2 か月前に脱退したと発表した。この同盟は、34 か国からなる統一海軍部隊で、紅海、湾岸の安全をはかるものとして、バハレーンに司令部を置いている。また、UAE は、地域の安全と安定という共通の目標を推進する手段として、平和的な対話と外交手段によってコミットするとしています。これは、明らかに、サウジとイランの正常化によって、軍事的な対峙が必要でないことを示しています。

こうした情勢の中で、7 月に予定していたネゲブフォーラムの延期を発表した。理由として、現在それを行う環境にないとして、米国自身が、中東での米国の存在が弱まっていることを認めたかたちになった。

イスラエルは、それだけでなく、国内に大きな問題を抱えている。それは、ネタニヤフが政権維持のために、極右宗教シオニストに妥協し続けているためである。

2 月 25 日、ネタニヤフは、スモトリッチに西岸の入植地に関するすべての権限をあたえ、フリーハンドを与えた。これは、西岸の実質的な併合へとさらに一歩すすめるものであり、欧州だけでなく、米国もこれを批判した。すでに有名無実化しているが、さらに、2 国家解決を不可能にする方向に動いている。

大規模な抗議運動を無視して司法制度を改革する広範な計画を推進する中、イスラエル議会は 5 月 13 日に汚職容疑によるベンヤミン・ネタニヤフ首相の解任を困難にする法案を成立に向けて進めた。クネセト（国会）議員らは深夜の投票で法案に仮承認を与えた。この法案は、身体的もしくは精神的理由によってのみ首相を統治に不適格と宣言することを議会に認めるもの。その後、クネセトが最高裁判所の決定をくつがえし、棄却された法律を成立させることを可能にする法案について投票が行われると見込まれた。両法案とも法律制定前にさらなる投票が必要となる。

今回の動きは、ネタニヤフ氏の連立政権によるイスラエルの司法制度改革に向けた一連の動きのうち最新のもの。首相と同盟者らは、活動的な裁判所を抑制することが目的だとしている。批評家たちは、この動きはイスラエルの民主主義的チェック機構とバランスを破壊し、ネタニヤフ氏と同氏が率いる議会多数派に権力を集約するものだとしている。

ネタニヤフは、自らの危機を乗り越えるために、5 月にガザへの大規模な軍事攻撃をおこなったにもかかわらず、その後の世論調査で支持率は上がらず、野党のガンツに負けていると結果になっている。政権を維持するためには、極右宗教シオニストとの妥協によってかれらを政権に引き留めることがますます必要となっており、ますます、パレスチナに対する強硬な政策がすすめられていくことになる。

こうした状況中で、パレスチナは、イスラエルとの軍事的な対峙を余儀なくされている。そして、軍事的な対峙は、ガザにとどまらず、西岸に拡大している。西岸の各地で武装集団が登場しており、それに対して、イスラエルは、部隊の増強を図り、ガザと同じようにドローンまで使って攻撃を行っている。また、入植者たちは、暴動を繰り返し、パレスチナ市民の安全を脅かし、財産を破壊している。

このような状況の中で、パレスチナ自治政府は、その存在意義を失っている。自治政府をイスラエルの治安のために利用したいイスラエルにとって、その弱体化は、イスラエル自身による軍事的な弾圧を意味する。パレスチナの民衆からは、イスラエルからパレスチナ民衆を守らない自治政府ということで、信頼を失っている。自治政府が望みをかけていた 2 国解決方式は、イスラエルに極右政権ができたことにより、その可能性はなくなり、また、米国はイスラエル寄りの立場を明確にしており、米国に頼ることはできない状態にある。ここで登場したのが中国である。中国は、中国が招待する最初のアラブの首脳として、自治政府のアッバース大統領を選び、パレスチナとの戦略的な合意をむすんだ。米国とイスラエルがすすめたアラブとイスラエルの正常化によって、孤立させられていたパレスチナにも、それを突破できる条件がつくられた。サウジアラビアも、自治政府、ハマスの代表をリヤドに招待するなど、統一の回復を後押しする動きもある。

パレスチナの諸党派は、極右化したイスラエル政府による軍事攻撃に対して、西岸での武装抵抗を拡大している。

投稿日： 2023 年 06 月 05 日 | 11 時 00 分(PFLPnoHP より)

パレスチナの悲劇は更新され、私たちを始まりに連れ戻し、70 年と数年、パレスチナの語りは相変わらずで、永久に続く痛みを語り、その輪から抜け出したいと願っています。パレスチナを完全に占領した後、歴代のシオニスト政権は出てきて勝利を宣言し、目標を達成する。これはネタニヤフ首相が前回のガザ地区への侵略の終了後に発表したことと同じで、（イスラエルは）パレスチナのレジスタンスの能力を破壊し、容易に回復できないレベルまで弱めることができたということである。しかし、イスラエルの世論調査によれば、自身の保身のためにこの侵略戦争を必要とするネタニヤフ首相が、そのコストや、非難の応酬をする侵略の継続で政府支持に立場を変えるであろう選挙民をなだめるためのコスト、特に占領社会内の不一致や亀裂が対立や分裂の強度を高めることに照らして耐えられないだろうことは注目に値することである。

このラウンドは、抵抗勢力が前のラウンドよりも強い能力を持っていることを証明するために、過去 20 年の間に更新されました。それは、占領地パレスチナの全居住区をミサイルの射程に収めたロケットミサイルに象徴される武装能力の質的発展に加え、政治と現場の現実の要求に従って対立を管理する統合作戦室の能力、戦闘のペースを制御する専門知識の蓄積によって表されています。

これは軍事的なパワーバランスにおける偶然の出来事ではなく、地域の政治シーンにその反響を投げかける現実的な変化であり、パレスチナの人々は、あらゆる手段で衝突、犠牲、占領への抵抗の準備ができており、彼らの正当な権利を得る前に、強者の支配と大義の終結という物語の幻想に屈しないという重要なルールを確認することができます。． 既存のパレスチナの分裂にもかかわらず、ヨルダン川西岸とガザ地区のパレスチナ人の統一は、犠牲と血の洗礼を受けながら達成された。ガザに対する侵略の最も重要な相互作用の一つは、ヨルダン川西岸のパレスチナ人民が示した、武装した特定の抵抗の道具と形態を開発する意欲、占領地内陸部のパレスチナ人の蜂起、そしてアラブのストリート全体に現れた、パレスチナ人の権利を支持する闘志であり、既存の政治と安全の方程式の崩壊である。パレスチナの占領と安全保障の方程式が崩れ、アラブの（イスラエルとの）正常化の方程式も崩れたのだから、それらが当然であるかのように。

だから、抵抗勢力は圧力に打ち勝つことで成功し、その存在と重みを押し付ける。パレスチナの人々が安全と自由を享受する前に、平穏も安全もないのです。現場のリーダーをターゲットにして現状を変えようとする試みは、最も激しい武力衝突を噴出させる。これはパレスチナ国民にとって大きな利益であり、すべての当事者の利益になる。ここで必要性が急務となる。定数と共通項に基づいて、国民統合のメカニズムを活性化すること。

地域は変化しており、利害関係国はこの変化に対応していかなければならない。ヨルダン川西岸とガザにおける抵抗は、パレスチナ諸派の抵抗にとどまらず、アラブと地域の方程式の中で無視できない重要なプレーヤーになっている。国民は、自分たちが指導者よりも偉大であることを証明しており、アラブ国家と世界の自由な人々の支援を受けて、勝利を収め、パレスチナの地から侵略者を追い出す能力を持つだろう。

70 年以上にわたって、パレスチナの人々は、ヨルダン川西岸地区、エルサレム、ガザで、都市の襲撃、アル・アクサ・モスクへの毎日の襲撃、逮捕、土地の略奪、入

植地の侵攻、家屋の破壊、エルサレムとその周辺のユダヤ人化を伴う残忍な殺戮に直面してきた。これらの犯罪は現在も続いており、敵は全身の警戒を必要とする公開軍事作戦であることを明確に宣言している。したがって、最近のガザ地区に対する攻撃的な作戦は、シオニスト政府の目において重要なことは：

パレスチナ人の血は 100 年前から止まっていません。シオニスト政府は、人気を高めたいときはいつでも、さまざまな口実でパレスチナ人に対して犯罪を犯します。今後数ヶ月間、パレスチナ全土がどこに向かうかを見守らなければなりません。基本的に脆弱なイスラエル社会は、その反応に耐えられず、特にそれが統一され強くなれば、イスラエル政府を非難する声が上がり、ネタニヤフ首相が率いる最も過激な政府も、占領社会を血の泥沼に導いた張本人として非難されるだろう。

危機的状況にある今　現在の現実は、すべての付帯事項を含むオスロ合意を廃止し、実存的な袋小路にある占領を前にした戦略的選択として、あらゆる形態の関与、その上に武装抵抗という選択肢に基づくパレスチナ人の行動戦略の結晶化をも必要としています、 その深い内部矛盾の結果として、また、パレスチナの人々がその土地で不動であり、地域の抵抗勢力の成長とエスカレーションの結果として、国際レベルでの大きな変革と、世界を支配するアメリカや帝国の覇権が終わる多極世界秩序の形成の可能性が始まっているのです。

パレスチナ人の闘いが新たな局面を迎えていることは間違いない。私たちは、不可能を知らず、シオニストのテロの力を恐れない新しいパレスチナ人の世代に直面している。パレスチナ人が自決の権利を獲得できるようにするために、占領者を前にして消耗という選択肢を採用し、闘争パフォーマンスの発展へと突き進む、新しい、従事するパレスチナ人の世代である。彼の運命は、シオニストの物語に従ってこの問題を忘れるはずだったこの新しいパレスチナ世代が、ここ数十年の間に受けた認識を改ざんしようとする試みにもかかわらず、自分たちの土地で不動であり、単独で戦えることを証明しています。一昔前、ゴルダ・メイアや他のシオニストの指導者たちは、古いパレスチナ人は死に、若い人たちは忘れ去られると言った。そして、父親や祖父たちの物語から何も忘れず、より強い決意と不屈の意志で衝突、闘争、抵抗、不動が続く新しいパレスチナ世代が彼らのもとにやって来た。

私たちと彼らの間では、傷は深まり、異常なまでの獰猛さを帯びている。この紛争の歴史を考察する者は、この敵が継続的な血なまぐさい行動によって、その野蛮さと蛮行を増大させていることを見る。占領者の残忍さを、土地、歴史、聖域を守り続けた勇敢な人々によるパレスチナの物語の不動性によって説明する人々がいる。敵の野蛮さのレベルは常に、自分たちの土地での血なまぐさい争いが明らかになった後、占領者の家族から抜け出したすべての民族の内的経験を思い起こさせます。私たちの敵が逸脱しない人道法の範囲内にあることは驚くべきことではありません。したがって、占領の終焉と家族の祖国への帰還はもはや単なる散り散りな夢ではありません。、むしろパレスチナ人の闘争行進を通じて、パレスチナ人がその有効な存在を証明する行動プログラムへと変容する。

そして、さらに深く、反対側の塹壕で起こっていることを素直に見れば、その政治的・思想的構造の裂け目の大きさがわかるだろう。彼らは、私たちの傷を踏みにじることなく、自分たちの存在を構築することができないのです。

そして、この 20 年間に確立された方程式から、パレスチナ人は、腕の中の兄弟愛、支援者、そして闘いを続けるために必要なすべてのものを、今も探し続けています。75 年、希望は意志を生み、行動と闘志を生み、そして行進はまだ続いている。しかし、パレスチナの物語は、パレスチナの人々、そしてこの権利を支持するすべてのアラブ人、人民の良心に存在し、パレスチナは、歴史の夜明けから今日まで人類が発明してきた概念や用語の意味や含蓄を、グローバル暴君がいかに変えようとしても、その間に第 3 の線、真実と偽りの線がない二つの線の衝突のメインタイトルであることに変わりはない。パレスチナでは、西洋の基準に従えば、強いものが生き残るという方程式が崩れた。ここでいう最強とは、不動であり続ける者のことであり、相手はその狂ったイデオロギーに焼かれた後、失われたものに戻っていく。

75 周年に際して、私たちは行進のすべての経過を再考しなければならない。その中で最も重要なのは、その間に多くの強さを蓄積してきたパレスチナ人の自己への配慮であり、その反面、この敵に依然として心を奪われている。ナクバには二つの側面がある。第一に、彼は私たちの悲劇をすべて見過ごしている。第二に、彼の実験室で、滅びないパレスチナのアイデンティティが作られた。

レバノン人民戦線、リッダ空港作戦 51 周年記念式典を開催

投稿日時：2023 年 5 月 29 日 | 22:50（PFLP の HP より）

レバノンのパレスチナ解放人民戦線と「岡本公三」の友人たちは、本日月曜日、ベイルートで、英雄的なリッダ空港作戦から 51 周年を記念し、日本人殉教者の墓と、パレスチナ革命の殉教者の安息の地、シャティラ円形広場にバラの花輪を捧げました。

このイベントには、戦線難民部長のアブ・ジャベル・アル・ルバニ、レバノン支部指導部のメンバーであるマゼン・デスーキ、レバノンおよびベイルートにおける戦線指導部、同志、スタッフ、友人、支持者、偉大な国際戦士「公三」、抵抗勢力各派、パレスチナ人民委員会、レバノンおよびイスラム国家政党および勢力、「公三」の友人、および多くの群衆が出席した。

レバノン人民戦線メディア局副局長のファティ・アブ・アリが出席者を歓迎し、レバノン人民戦線政治関係局長のアブドゥラ・アル・ダナンが「ロド空港作戦 51 周年に際して、忠誠心に敬意を表するものである、 パレスチナの大地に自らの肉体の原子を植え付けた英雄たちが体現した国際的連帯への賛辞であり、忘れがたい記憶への賛辞であり、彼らはわが民族、わが大義、わが自由の戦いを支援するために地球の隅々からやってきた。

アルダナンはスピーチの中で、”1972 年の 5 月 30 日、9 時 45 分ちょうどに、3 人の男が国際対決の拳を携えてロド空港で出会った。” と付け加えた。

そして彼は続けた：”我々は、2 人の同志 ”安田安之「” と ”奥平剛士 ”の精神に敬意と忠誠を表し、国際派の闘士 ”岡本公三 ”と英雄的殉教者ワディ・ハダドの精神に賛辞を送る。” 輝かしい思い出が到来し、世界と我々の地域は希望と楽観主義に動機づけされて新しいステージに向かっている ”と指摘したのである。深く、革命的なのは、私たちが抵抗によって支配され、それが勝利への最短の道であり、「快適な占領」という概念の破壊に貢献するからであり、それは次の事実からもたらされるのです：

第一：世界のアメリカ化という考え方の不安定化；私たちは国際的な変化を過小評価せず、それについて語ることは贅沢なことではない。パワーバランスの変化がある。二極体制の相対的なバランスが、第三世界の解放運動とその独立に肯定的に反映された後、ソ連崩壊後、一極化と世界のアメリカ化が始まった... 我々に反映し、核心を突いた。そして、その解決と連動は、もっぱらアメリカの政権の手に委ねられていると。今日、私たちは、新たな世界的・地域的大国の出現と新たな変容を目撃しています。私たちは、新しい世界秩序の形成の始まりを目撃しているのです。その兆候は、中国やロシアといった新しい極の支援の下でのアラブやアラブとイランの和解である。

第二に この地域のための「シオニズム」という考え方と「大イスラエル」設立の論理を阻止すること。これは、シオニズムの真実がより明らかになった後に行われました。ハイブリッド形成であり、絶対的な虚偽に基づいた実体であり、矛盾は、それが不自然な実体であること、自然になることに失敗したこと、さらに人種差別と敵意を前面に出して逃げようとするほど悪化させるだけでした、 この実体の存在によって、この地域に平和、独立、主権、発展、真の自由はなく、むしろアラブ NATO、「アブラハム」平和などに基づくアラブ地域と中東システムのシオニスト思想の崩壊との衝突と対立の中にあるのである。

第三に パレスチナ人は絶滅は不可能であり、パレスチナは創設期のシオニストが推進したような民のいない土地ではないので、パレスチナ人の原因を清算するという幻想は後退した； 現在、占領された祖国全体におけるパレスチナ人の数は、収容所やディアスポラの土地におけるユダヤ人の数に等しく、全世界のユダヤ人の数よりも多い。これは、パレスチナ人の闘いの成長、パレスチナ人の若者、英雄的な若い女性や勇者たちの犠牲、抵抗、並外れたヒロイズム、人々の贈り物、誇り、誇りと行動を持った囚人たちの不動心と平行して起きている。パレスチナ解放プロジェクトの柱に基づくレジスタンスと現場部隊、そう、パレスチナのレジスタンスがその名を呼んだ戦い -「エルサレムの剣」は、入植団とシオニスト軍からの侵略を受けるエルサレムの地位の極めて重要なイメージとして、また、西岸、ガザ、ガリラヤ、ネゲブの内外のパレスチナ人の間の戦いへの統合のために、不動と不動 地上では、レジスタンスは回避することのできない地域のアラブの現実になっている。

アルダナンは、「ガザ地区に対する前回の侵略を目撃したものは、常にアメリカの援護の下で実行され、シオニストの敵は突然の犯罪と野蛮な侵略を行い、レジスタンスの指導者に対して、33 人以上のパレスチナの殉教者の命を奪い、その家族を押しつぶし市民登録から消し、市民を爆撃して殉教した。侵略をはね返す戦いで、旅団（殉教者アブ・アリー・ムスターファ）から 5 人の同志は人民戦線の軍事部門であると述べた。

アルダナンは、課題に直面し、変化を踏まえ、国家目標を定め、力を強化し、エネルギーを結集し、権利、意志、抵抗の力を堅持し、国家、国内、国際の力の要素を動員し、我々の隊列を組織する必要性を訴えた：

A) 包括的な関与のプロセスをリードし、戦線の場所や場において、さまざまな形態、計画、形式での抵抗行動、さまざまなツールや武器での抵抗を統一する民族解放行動戦略に関与したいすべての人を集め、誰にでも開かれたパレスチナ抵抗戦線の設立、 愛国心を回復させる包括的で新しい国家政治ビジョンを確立するものである！したがって、私たちの使命は、対立の中心に立つために、民族的アイデンティティと民族的団結を構築する力を蓄積することです。

b) 今日、アラブの新体制について語るとき、私たちにとって新しい基準は、レジスタンスとパレスチナとの具体的な統合、そしてアラブ人一般の良心と良心におけるパレスチナの聖性の更新です。これは、国家の人々を歴史的責任の前に立たせます、 シオニストの侵入、正常化、植民地支配、帝国主義への従属に抵抗するアラブ戦線に組織され、世界帝国主義と人種差別的シオニズムに抵抗する国際戦線の一部として、新しいアラブ民族解放運動の確立を求めるアラブ解放勢力と民衆運動の要請をこれまで以上に更新することである。.

投稿者：2023 年 06 月 05 日｜ 10:59（PFLP の HP より）

一週間前、リッダ空港でのコマンド一作戦の記念日が来た。1972 年 5 月 31 日、日本赤軍の戦闘員たちは、人民戦線との連携と計画によって、当時、軍事的、政治的に多くの意味合いを持ち、わが民族の記憶に刻まれている作戦を実行した。

空港に到達して作戦を遂行した戦闘員の成功は、ダラル・アル・マグリビのシャティ作戦、ヘブロンのダブーヤ作戦、グライダー、北部のタルシハ作戦における成功と同様に、パレスチナの抵抗運動家にとって同じスタイルの多くの成功に加えられる成功である。レジスタンス派が行った一連の具体的な作戦は、レジスタンスは敵に苦痛を与えることができる、レジスタンスという選択は実現可能であり、他に道はない、という重要な示唆を運んできた。

日本の左翼の戦闘員がパレスチナのために戦うことを選択し、そのために 2 人は命で償い、3 人目は拷問と隔離で死にかけながら何年も投獄されるという政治的含意は明らかである。それは最高の国際連帯であり、さらに、最高の国際闘争である。レバノンのフェダイエンの拠点には、アラブや世界のさまざまな国籍の戦闘員がひしめいていたのである。帝国主義への敵意は闘争の統一への入り口であり、パレスチナ左翼にとって、思想の統一は、敵意に加えて、国際左翼との関係への入り口でもあった。今日、左翼がリッダ空港の作戦を記念して、その国際主義的闘争、関係、同盟を想起して立つとき、その関係、同盟、立場において、国際主義の理解がどの程度具体化されているか、もし本当にマルクス主義の思想的視野において、この基本柱、国際連帯に依然として忠実であるならば、慎重に吟味しなければならない。左翼が、パレスチナ闘争を支持するすべての人々と、その偏見、ヴィジョン、イデオロギー的信念にかかわらず、協力と同盟の関係を築くことが理解されるなら、左翼が関係同盟に敬意を表してそのイデオロギー的信念に土をかけないことも、法則（同盟／批判）によれば正しいことです。パレスチナの闘争を、言葉でも行動でも、そして利益に基づいて、もちろん信念に基づいて支援する政権がある。左翼がこれと同盟関係を結ぶのは当然であるが、人民グループ、その要求、その革命勢力、その闘争に味方するという、よく知られた道徳的特徴を持つそのイデオロギーに忠実でなければならないのである。それは、同盟と批判、同盟と独立の維持、同盟の旗の下での依存に陥らないこととの間で求められるバランスである。それに応じて関係を調整することは、綱渡りのようなものかもしれないが、歩む以外に道はないのである。

リッダ空港作戦記念日に、左翼は国際連帯、さらには国際闘争、パレスチナ闘争に役立つ同盟をできるだけ多く結び、左翼が従属の泥沼の中で独立と期待を失わないという選択肢を堅持しなければならない。

サウジ・イラン協定の影響を抑制するためにリヤドに向かう一連のアメリカ人巡礼者たち

投稿日時：2023年5月23日｜11:01（PFLPのHPより）

アライン・アライン

サウジアラビアとイランが3月、中国の支援の下、北京で両国の和解協定に署名した後、両国の国交回復が明記され、2001年に遡る安全保障協力協定の再活性化と麻薬、密輸、犯罪撲滅への協力が盛り込まれていた。貿易、経済、投資に関する別の以前の協定に加えて、シオニストの敵の政府もアメリカの政権も正気を失い、協定は雷鳴とともに彼らの頭上に落ちた。特に、彼らの情報機関はサウジの会合に関するいかなる兆候も情報も得ることができなかったので、彼らはこの予想外の会合に驚いてしまった。- 北京のイラン人は、中国の習近平国家主席が享受した温かい歓迎を受け、多くの戦略志向の合意をもたらしたものの、何かが起こり、シオニストとアメリカのすべての期待や計画がひっくり返るかもしれないと示唆していた。

この合意の後、アメリカ政府は、イエメン戦争、シリア問題、多くのアラブ諸国とのアブラハム合意での正常化問題、サウジアラビアがアメリカを犠牲にして中国やロシアとの関係を深めている問題など、多くの問題に関連するこの合意やその成果を阻止する目的で、リヤドへの前例のない巡礼シーズンに次々と特使を派遣し始めた、　特にロシアとサウジアラビアが「OPECプラス」の枠組みの中で石油生産を制限するという和音を奏で始めた後、ワシントンは混乱し、その中で西側の資本主義諸国が賭けているロシア経済への支援を見た。 2002年2月24日のロシアの特別軍事作戦後にロシアに課せられた前例のない制裁によって破壊されてしまった。

アメリカの一連のリヤド訪問

一連のアメリカのサウジ首都訪問は、時系列的には次のように始まった：

1- 昨年4月6日の「ウィリアム・バーンズ」CIA長官の訪問は、安全保障協力の強化を口実にしたものであったが、「ウォールストリートジャーナル」紙によれば、その真の目的は、サウジアラビアがイランやシリアと和解したことに対する米国の不満と衝撃を表明することであった、　が中国の首都北京でサウジとイランの協定に調印した後、欧米から厳しい制裁を受けている2カ国との和解が、ワシントンの世界の競争相手の援助の下で行われたことである。".

ワシントンの世界的な競争相手の援助のもとで。".

オブザーバーは、昨年4月15日にリヤドで開催された金融部門会議において、ムハンマド･アルジャダーン･サウジ財務大臣が「国交再開の合意後、サウジの投資が非常に早くイランに入る可能性があり、イランにはサウジの投資の機会が多く、いかなる合意の条件が尊重される限り、障害はない」と述べたことに注目した。"

2- サウジアラビアの皇太子とサウスカロライナ州のリンジー・グラハム上院議員との会談は、4月11日にジッダで行われ、駐英国米国大使館のマルティナ・ストロング代理大使とリンジー上院議員補佐官のアーロン・ストリックランド氏の同席のもと、両国の関係や友情、共通の関心事項の多くについて、「観察者の目には、サウジとイランの合意とその反響という問題から外れてはいないように見える。

なお、リンゼイ・グラハム上院議員が2018年11月27日、サウジ人ジャーナリストのジャマル・カショギ氏殺害事件を含む4つの事件でビンサルマンを処罰すると公約し、その際に「もしCIAがカショギ氏殺害の指示を出したと認めたら、サウジ皇太子のムハンマド･ビン･サルマンに制裁を課すよう努力する」と言っていたことが注目に値する。

3- CIA長官のリヤド訪問後、米国のジェイク・サリバン国家安全保障顧問は、4月12日にリヤドを訪問し、イエメン戦争終結のために進行中の外交努力について、サウジのムハンマド・ビン・サルマン皇太子と話し、彼が言う　「戦争を終わらせる全面的なロードマップを推し進めるサウジの特別な努力」を歓迎し、「これらの努力への米国の全面的な支援」を約束した。

しかし、今回の訪問の本質は、サウジとイランの合意を阻止しようとする彼の努力であり、サリバンはサウジの皇太子に、イランなどからの脅威に対する抑止力を維持する必要性を強調し、イランが決して核兵器を入手できないようにするというジョー・バイデン米大統領の揺るぎない約束を繰り返した。.

4- ジェイク・サリバン国家安全保障顧問が再びサウジアラビアを訪問し、5 月 7 日にムハンマド・ビン・サルマン皇太子、首長国のシェイク・タフヌーン・ビン・ザイド・アル・ナヒヤーン国家安全保障顧問、インドのアジット・ドバル国家安全保障顧問と会談し、より中東の安全、繁栄、インドや世界との相互依存のために共通のビジョンを強化するためだった。.″

ジェイク・サリバンは、新たなサウジアラビア訪問の前夜に、今回の訪問の目的は、サウジアラビアと（イスラエルの）関係正常化を議論し、サウジアラビアと米国との関係で起こったサウジアラビアが率いる OPEC ＋グループによって実施され原油減産と 2018 年にワシントン・ポストのコラムニスト、ジャマル・カショギ氏が殺害されたことに関する両国の相違によるダメージを修復することだと述べていました。

アメリカ政府関係者のリヤド訪問の主な目的

アメリカのリヤド視察は、第一段階として、次のようなことを目標としています：

第一に　サウジとイランの合意の結果にブレーキをかけ、この合意がシリアの政権や「アンサール・アラー運動」率いるサヌア政府、アラブ諸国と（イスラエルの）正常化問題に対するサウジ・アメリカの立場に悪影響を及ぼさないようにし、合意の結果を両者間の外交関係に限定するよう努める。アメリカの高官は、頻繁にサウジアラビアに訪問する中で　イランの脅威と、米国とサウジアラビアの関係を安全保障と軍事面で発展させ、両者の戦略的関係を以前の状態に戻す必要性について語ることをやめなかった。アメリカのホワイトハウスの報道官は、CIA 長官のリヤド訪問の翌日の声明で、「すべての事柄についてサウジアラビアと意見が一致するわけではないが、我々はパートナーに変わりない」と述べた。 ″

第二に、イエメン戦争を終結させるためのサウジアラビアとサヌアの合意を妨害することである。サウジとイランの合意は、両者の間で複数回の休戦が成功した後、イエメン戦争を終結させるためのオマーンの仲介の支持要因を形成した。そのイエメンとの戦争終結の条件は、軍事的に能力のある者の立場から、イエメンの統一、主権、独立を守ることを前提とした交渉の前段階として、封鎖の停止、サヌア空港の開放、従業員の給与の支払いに代表される。

アメリカがわめくイエメン戦争を止めるための解決策を支援するという外交的な言葉から離れ、米政権は、以下に代表されるように、イエメンを屈服させるという絶望的な戦略目標を達成するために、イエメン戦争を拡大しようとしているのです：

11- 紅海を支配し、イスラエルとアメリカの湖にする。これは、紅海が西側諸国への石油タンカーの主要な通過点であるため戦略的に重要であり、紅海西岸にロシアや中国の拠点を設置しようとする試みを阻止するためである。

2- 湾岸とアラビア海を隔てるホルムズ海峡をイランが支配している中で、戦略的なバブ・アルマンダブ海峡を支配し、スマトラ島など海峡に近い島々にアメリカやイスラエルの軍事基地を設置して、海上航路を支配する。

3- イエメンの一部とその周辺におけるアメリカの戦略的プレゼンスを確保する。アンサール・アラー運動の指導者であるアブドゥル＝マリク・アル＝フーシ氏は最近、ワシントンがイエメン東部のハドラマウト県とアル＝マハラ県に軍事拠点を設置し、アメリカ第 5 艦隊の駐留地を設けていると明らかにした。

ワシントンのアル･マヤディーン事務所の所長である「モンサー・スレイマン」によると、アフガニスタンから撤退したアメリカ軍の一部とその装備は、カタールのアル･ウデイド基地に加え、イエメン南部のアル・アナド基地に駐留し、アル･マフラ県にはサウジの主要拠点に加え、アメリカの拠点が置かれており、同県はサウジとアメリカの石油利権の対象になっており、言うまでもなくサウジの次のステージで稼働しようとしている石油パイプラインへの出口になっている。

また、イエメンの地理は、「チャールズ･アブ･ネーダー」をはじめとする多くの軍事専門家によれば、紅海に面し、オマーン湾とアラビア海に面し、他の地域にも広がって

いるため、中東で最も重要であり、おそらくほとんど西アジア地域でも最も重要であろう。湾岸だけでなく、北インド洋まで、アメリカがいくつかの目標のために軍事基地や支点を建設するのに必要な場所です。

4- アメリカ軍がシリア東部の油田から盗掘するのと同じように、ハドラマウト県にある油田から大量の石油を盗掘し続けること。

第 3 : シリアのアラブ連盟復帰の阻止　アメリカ政権はシリアのアラブ連盟への復帰を妨害しようとしたが、惨敗した。サウジ外相のダマスカス訪問、シリア外相のリヤド訪問、多くのアラブ外相とシリア外相の一連の相互訪問の後、決定が下された。 アラブ連盟は（第一に）シリアの大学加盟凍結を解除し、カタール、モロッコ、クウェートの保留にもかかわらず大学および大学付属のすべての委員会と機関に復帰することにした。リヤドの決断は（第二に）シリアのバッシャール・アル＝アサド大統領をジッダでのアラブ首脳会議に招待することになったが、アサドの出席は米政権とシオニスト主体の双方にとって驚くべき驚きであった。

第四に、サウジアラビアとこの地域のすべての国々における中国の影響力を低下させること。中国との経済・政治関係の発展を目的とした会議が、中国国家主席とアラブの指導者の出席のもとにジッダで開催された場合、この影響力が「サウジ・イラン協定」の調印とそれに伴う地域の変革という連続した結果をもたらすことによって、米国に戦略危機を生じさせた。

前述のことは、サウジアラビアが他の同盟に移ったことを意味するものではない。むしろ、前述のステップにおいて、各大統領の時代に受けた一連の侮辱の後、アメリカの政権に対して、その選択肢が複数あること、アメリカの政策の単なる追随者ではなく、同盟者になることを求めるメッセージを送りたかったのである。トランプ、そしてすでにパリア国家化を公言しているバイデン大統領は、サウジアラビアはもちろん、以上のことから、トルコ軸、イラン軸と並行して、その経済的、地政学的観点から、民族解放の観点でもなく、アラブルネッサンス計画の観点でもない、アラブ軸を形成しようと模索しています。

パレスチナ日誌

2 月 23 日

・占領当局は、警戒レベルを上げた。
・米国は、イスラエルの西岸への襲撃について深い懸念を表明した。
・ベイトウマールでの衝突で、負傷者
・抵抗運動は、ガザ周辺の入植地に向かってミサイルを発射
・ジェニンで占領軍の銃弾で青年が殺された。
・占領軍の航空機がガザの抵抗運動の拠点を爆撃
・占領軍は、刺殺攻撃をしようとしたとして女性を銃撃
・クネセットは、獄中者の治療を否定する法の第一読会で承認。
・殉教者の魂に服喪するために西岸の諸都市で、ストライキが行われた。・エルサレムでもストライキ
・国連の和平プロセスの調整官が、ガザに到着した。
・占領当局は、アルアクサの警備員を逮捕した。
・アルアルウブキャンプでの占領軍との衝突で青年が重傷を負った。
・西岸の占領権力のシェアについて、ガラントとスモトリッチの間で合意
・ライオンズ・ディン : ナブルスの虐殺のあと 50 人がグループに参加した。
・ベツレヘムの西のフサンで占領軍との衝突

2 月 24 日

・ライオンズ・デンは、パレスチナ人に街頭に出るように呼び掛け。
・すべての都市で、パレスチナの大衆は、ライオンズ・デンの呼びかけに応えた
・クサラで、入植者たちの銃弾で、2 人の青年が負傷。
・入植者たちは、サルフィットの土地に墓を建てた。
・北部ヨルダン渓谷で、入植者たちは、羊飼いを追いかけた。
・エルサレムで占領軍は、二人の青年を逮捕した。
・ヘブロンの衝突で、青年が銃撃され、負傷した。
・エルサレム、占領軍は、彼を攻撃したあと青年を逮捕
・ヘブロンで音響爆弾で、ファタハの報道官が負傷した。
・ラマラの東で、入植地に反対する行進の占領軍による弾圧で、負傷者がでた。
・入植者たちは、アルハデールの街で、70 本のオリーブの苗を根こそぎにした。
・ツバスの東で、市民たちと占領軍の衝突
・ヘブロンの対峙で、民主戦線の指導者が音響爆弾で頭部を負傷。
・ベイト・ウマールの衝突で、窒息者。

・ナブルス：ベイト・ダジャンとベイタの衝突で負傷者
・カフルカッダムの行進への弾圧で、二人が銃撃され、数受任が窒息した。
・ガザのジハードが西岸の抵抗と殉教者への連帯と支持のスタンディングを組織した。
・バルグティ：テロリストゴールドシュテインの郎党が、ナブルス、ジェニン、ジェリコの虐殺を実行した。
・ハマスは、西岸の抵抗と獄中者を支援するスタンディングを行った。
・ジャバリアの東で、占領軍の銃弾で二人が負傷。
・占領軍は、ベイト・ウマールの市民の葬儀を攻撃し、青年を銃撃した。
・ヘブロンで、アパルトヘイト占領政府を倒すことを呼びかけ、行進

2 月 25 日
・西岸の浅慮軍の軍事拠点が標的に
・アメリカ政府は、イスラエルに西岸の緊張を緩和するように、主張。
・カラワト・バニ・ハッサンで占領軍は、ブルドーザーを没収した。
・獄中者たちは、12 日間、不服従を継続している。
・マサフェールヤッタで占領軍は、市民とその妻、子供を、彼らの土地で逮捕した。
・サルフィット：入植者たちは、市民たちを攻撃し、彼らが自分たちの土地で働くことを阻止した。
・入植者たちは、ブリンを攻撃した。
・人民戦線は、アカバ会議の結果を警告し、自治政府に参加しないようによびかけた。
・占領警察は、アルアクサモスクのキビリ礼拝ホールを襲撃
・シリワドで、入植者たちは、農業室を荒らし、木々を破壊した。
・民族イニシアチブ運動は、アカバ会議の参加の危険性につちて警告
・サルフィットで、ごみ収集車を没収した。
・占領軍はキフィハリスのラウンドアバウトで、青年を逮捕。
・ベイト・ウマールの北、サファ地域で入植者たちが襲撃しようとした。
・8 週目、25 万人の人々が、ネタニヤフ畏怖に対するデモを行った。
・ヘブロンの南で、占領軍は 8 人の市民を逮捕。
・占領軍は、ガザの 4 人の移民を逮捕した。
・高官レベルのパレスチナ代表団がアカバ会議に参加する

2 月 26 日
・ナブルス：占領軍は学校を襲撃し、パレスチナの旗を取り除いた。
・ハマスは、パレスチナ自治政府がアカバ会議に参加していることを非難
・占領自治体の職員が、シリワンを襲撃した。
・ガザで西岸と連帯する大規模な学生のでもが行われた。

2 月 27 日
・ガザ：諸派は、民族会議を行い、アカバサミットを拒否した。
・入植者たちのハワラ攻撃で 98 人が負傷。
・占領軍は、獄中者マハムド・タームラ家族のメンバー数人を逮捕した。
・大統領府は、ナブルスでの入植者たちによるテロを非難した。
・ナブルス作戦でイスラエル軍に従事している二人が殺された。
・ワシントンは、イスラエルとパレスチナの鎮静化のためのアカバ会議を歓迎した。
・ファタハはカードルに、大衆を動員し、入植者たちの攻撃と対峙するように呼び掛けた。

2 月 28 日
・イスラエルは、北部西岸に追加の大隊を送る決定をした。
・ナイト・コンヒュージョンの間、ジャバリアの東で、占領軍の銃弾で青年が負傷した。
・占領軍は、ナブルスへ援軍を送り、シンベトは特別指令室を設置した。
・占領軍はシュジャイヤの東で、農地に向かって、発砲した。
・占領裁判所は、東ベツレヘムの学校の取り壊しのキャンセルの要求を否定した。
・入植者たちは、ハマメット・アルマレ共同体を攻撃した。
・ジェリコ近くでの銃撃攻撃で、イスラエル人が重傷を負った。
・エルサレムの北東で、入植者たちが、市民の車に投石をした。
・占領軍はジェリコの南で軍事政策を強化した。
・ナブルスの西で入植者たちの攻撃で、二人の市民が負傷し、数台の車が破壊された。
・イスラム聖戦：ガザのレジスタンスは、西岸で起こっていることにレディである。
・女性の入植者が、銃撃で負傷し、バスが火炎瓶で放火された。
・米国国務相は、西岸での入植者たちの暴力を非難した。

・西岸で、入植者たちが青年を攻撃し、青年が逮捕された。
・占領自治体のブルドーザーが、イサウィヤの二つのアパートを完全に取り壊した・
・占領軍は、一連の作戦を実行したとしてラマラの 8 人の青年を逮捕したと曽長している。」
・米国務省の報告 : イスラエル軍は、入植者の攻撃を阻止していない。
・占領軍は、ジェリコの包囲を続けている。
・ラマラの東、カフル・マリクの 4 人の少年を逮捕した。
・入植者たちは、ナブルスの南、マダマの街を攻撃した。
・アメリカの当局者が、ハワラの街を訪問。
・イスラエルの予備役が、司法改革のため、兵役につくことを拒否すると脅している。
・警官と兵士を攻撃した 5 人の入植者が逮捕された。
・占領軍は、ベイト・ウマールの少年を逮捕した。
・ガザで、獄中者と連帯するスタンディング
・イスラエル人たちが入植者のテロで影響を受けたハワラの人々に寄付をした。
・アロウブキャンプでの占領軍との衝突で、呼吸困難者

3 月 1 日

・占領軍はジェリコの包囲を続けている。
・2 月にベドウィンの共同体に 38 件の侵害があった。
・16 日目、獄中者たちが、不服従を継続している。
・ヨルダン渓谷のホムサ共同体の市民の家々を取り壊した。
・占領軍は、アカバト・ジャベールキャンプの 3 人の青年を逮捕した。
・占領当局は、ヨルダン渓谷で、骨董品の発掘を継続している。
・ベイト・ウマールで、入植者たちが家の窓や車を破壊
・占領軍は、アルファラキャンプの青年を尋問のあと逮捕した。
・占領軍は、シリワンで、エルサレム市民を逮捕した。
・ファタハはジェリコとヨルダン渓谷で全面ストを発表
・アイネヘルワで、衝突で、ファタハ・メンバーが殺された。

3 月 2 日

・西岸で複数の逮捕者
・ジェリコで全面スト
・占領軍は、殉教者ソウフ・バハリスの家族の家を襲撃
・ジェリコの北、サワナ地区で、入植者たちが羊に草を食べさせていた。
・占領当局のブルドーザーがヘブロンの西イドナの家を取り壊した。
・ハマスは、ラファの獄中者たちを支持するスタンディングを組織した、
・ガザで獄中者の処刑の法律を非難するデモが行われた。
・ジェリコの西で、入植者たちは、市民たちに実弾を発射した。
・アルシャビバがヘブロン大学の学生評議会選挙で勝利した。
・ジェニンの西、ルマナ村の衝突で、呼吸困難者
・死刑の拒否で、獄中者運動は、ストライキを拡大することを決めた。
・証拠不十分を口実に、占領当局は、すべてのハワラの放火反を釈放した。
・ヘブロンの赤十字本部の前で獄中者を支持するスタンディングが行われた。
・占領軍は、ジェリコ市の入り口を再び閉鎖した。
・ヤバドの街での占領軍との衝突で呼吸困難者。

3 月 3 日

・アズウンで、占領軍の銃弾で儒教者一人と 2 人が負傷
・EU は、スモトリッチの発言を受け入れはできない。
・アラブ連盟は、国際社会に、パレスチナ人に対する侵害をイスラエルにやめさせることを呼びかけた。
・占領軍は、タマオウンの二人の青年を逮捕した。
・占領軍は、シリワンの 3 人の青年を逮捕した。
・エジプトはスモトリッチの発言を非難
・占領軍は、カルキリヤの青年を逮捕した。
・殉教者サリムを追悼するためにアッズウンで全面スト
・占領軍は、ハワラに連帯活動家たちが到着するのを阻止するために、ナブルスを閉鎖した。
・入植者たちのカリュウト水源への襲撃で、呼吸困難者
・アメリカのユダヤ人は、スモトリッチのビザを取り消すようにワシントンに要求
・占領軍は、ジェリコの西で、市民を逮捕
・ナブルスの南で占領軍は、イスラエル人の連帯の行進を弾圧した。
・金曜礼拝のあと、シリワンで衝突。
・カフル・カッダムの行進の弾圧で、2 人が銃撃された。
・ムスタラビンがシリワンの街を襲撃
・シェイク・ジャラ近隣での週例デモの弾圧で 10 人以上が逮捕された。
・ブリンの衝突で、30 人が負傷した。
・ガザ市の南東で、占領軍はシビルでフェンスに発砲した。
・ヘブロンの北アルアロウブキャンプへの襲撃で占領軍の銃弾で一人の青年と少女が負傷した。
・占領軍は、撃たれたあとでアルファワラの青年を逮捕した。

3月4日

・イスラム協力機構は、スモトリッチの発言を非難
・ジェニンの南で、アラバ交差点に、検問所を作り、ヤバトを襲撃した。
・トルカラム大隊：我々は、我々の周りに人々が集まることを呼びかける。
・アルアクサモスクで、カフル・カラの青年が逮捕された。
・占領軍は、カバティアで、殉教者マハモウド・カミルの父親を逮捕した。
・5千人のアメリカ人がスモトリッチの米国への入国を拒否する西岸にサインした。
・獄中者たちは、19日目の刑務所当局への不服従を続けている。
・イスラエルの人権団体は、占領と入植者たちに反対するデモを呼びかけた。
・入植者たちは、タルクミヤへの市民たちを攻撃した。

3月5日

・西岸での逮捕
・37人のパイロットが軍事訓練への参加を拒否
・占領軍は、ベツレヘムのバラックとチャペルを取り壊した。
・占領軍は、ベイト・カヒルの街を襲撃し、車両を押収した。
・ツクで占領軍との衝突で、負傷者
・ラマラで獄中者の家の取り壊しを占領軍は決定した。
・ハーレツ紙、イスラエルは、石油とイランへの拠点の見返りに武器を提供する。
・占領軍は、カランディア検問所で銃撃者を逮捕したと発表。

3月6日

・ラマラで獄中者イスラム・ファロウクの家の取り壊しを占領軍は決定した。
・入植者たちは、80本のオリーブの樹を根こそぎにし、ヤソウフの土地にテントを立てた。
・占領軍は、ベイト・ウマールとサイールで4人の市民を逮捕した。
・ワディ・アルジョズ、3件の家を取り壊し、18人をホームレスにした。
・ガザ、国際婦人デーで、女性の獄中者に連帯する女性のデモが行われた。
・占領軍は、ベイトハヌーンの検問所で、ガザの市民を逮捕した。
・ヘブロンの南のマサフェール・ヤッタで４軒の家を取り壊した。
・ネタニヤフ：任務を拒否する兵士は、われわれの存在を脅かしている。
・占領軍は、アルアクサで、子供と女性を逮捕した。

3月7日

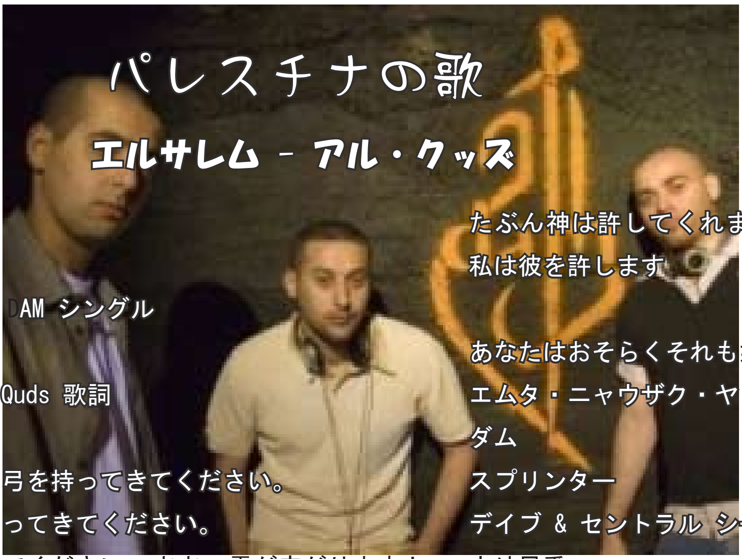
・軍の防衛のもとに入植者たちが、ハワラを再び、攻撃した。こどもを含む負傷者をだした。
・イスラエルは、アレッポ国際空港を爆撃し、空港の機能を停止させた。
・入植者がアルアクサを襲撃
・サルフィットの西で、少年が逮捕された。
・ジェニンで、占領軍の攻撃で、6人の殉教者
・占領軍は、ナブルスの東、アスカルキャンプの市民たちを逮捕した。
・ナブルスの東の入植者たちの攻撃で、市民が負傷。
・ジェニンの衝突で二人のイスラエル兵が負傷した。
・占領軍は、説教師サランダをアルアクサから追放した。
・占領軍は、サファディ一家を攻撃し、彼らの息子を負傷させた。
・ヘブロン一入植者たちが市民を攻撃し、占領軍は3人の市民を逮捕。
・占領軍は、ジェリコの入り口に軍事検問所を作った。

3月8日

・ジェニンの殉教者を追悼する全面ストの発表。
・ガザで、ジェニンと獄中者うぃ支持しする夜の行進がお縄れた。
・カセム旅団は、占領軍に対峙する武装抵抗のエスカレートを呼びかけた
・ベイト・ウマールで二人がゴム被膜弾で負傷した他は、呼吸困難に
・占領軍は、ガザ国境にミサイル着弾した発表。
・ライオンズ・デン：我々は、すぐに、ジェニンの殉教者
復讐を行う。
・占領軍が、ハーンユニスの東、抵抗運動の拠点に砲撃した。
・占領軍はドウマのテントとバラック家の建物の分離の右ウ国をいた。
・ジェニンの大衆は、虐殺された殉教者たちの遺体を追悼した。
・子供が負傷、入植者たちがヘブロンで市民たちを攻撃した。
・ベイテュニアで占領軍との衝突
・ベイトイズジャで殉教者ムハマッド・アブカフィアの葬儀、衝突が起こった。

3月9日

・北部西岸の入植地評議会の長が銃撃された。



– エルサレム
ダム
– 収録アルバム： DAM シングル
12 人の寄稿者
エルサレム – Al Quds 歌詞
［必要］
私の燃える黄金の弓を持ってきてください。
私の欲望の矢を持ってきてください。
私の槍を持ってきてください： おお、雲が広がります！
私の火の戦車を持ってきてください！

［マフムード・ジャリリ］
誰もがバイーア州の住宅を望んでいる
神は都市に花を咲かせると約束した
より大きな軍隊を持つ者、より鋭い剣を持つ者のために
鏡を見て自分がより純粋になっていると思う人のために
屋根の上にはあらゆる色の旗が掲げられています
全世界が縮小してここに住んだ
私たちは船を与えられ、要塞に乗った
私たちの罪を償いたいのです

矢を持ってきて、槍を持ってきてください
英語をしっかり身につけるまで、私たちは決して止まらない
著作権を主張せよ、あなたのスタイルは ISIS に盗まれた
ヴァイオリンがあっても暴力性が薄れるわけではない

【テイマー・ナファール】
あなたの目的が植民地化することであるなら
私はシートベルトを着用せず、黙って座っていません
決して受動的な乗客ではなかった
メッセージが撃つことである場合は、メッセンジャーを撃つか
私はそれを認めます、決して宗教的ではありませんでした、いつも
それが悪質であると見て、女性を雌犬のように扱いました
ヒップホップがそれをやるずっと前に、理解してください、私が間違っているなら

たぶん神は許してくれますが、もし私が正しければ、
私は彼を許します

あなたはおそらくそれも好きでしょう
エムタ・ニャウザク・ヤンマ
ダム
スプリンター
デイブ & セントラル シー
市外局番
カーリー

［必要］
私の燃える黄金の弓を持ってきてください。
私の欲望の矢を持ってきてください。
私の槍を持ってきてください： おお、雲が広がります！
私の火の戦車を持ってきてください！

［マフムード・ジャリリ］
槍をくれ、大砲をくれ
そこで私たちは祈り、成長したいのです
戦車をくれ、入植者をくれ
そこで家を建てることにしました
壁の向こうで子供が笑ってる
女の子が遊んでいて、女性がダマスカス門にいる
クレイジークレイジー、で、シュマール・ゴーレ（ヘブライ語、国境警備隊）狂気の狭間で心を探して

矢を持ってきて、槍を持ってきてください
英語をしっかり身につけるまで、私たちは決して止まらない
著作権を主張せよ、あなたのスタイルは ISIS に盗まれた
ヴァイオリンがあっても暴力性が薄れるわけではない

［必要］
私の燃える黄金の弓を持ってきてください。
私の欲望の矢を持ってきてください。
私の槍を持ってきてください： おお、雲が広がります！
私の火の戦車を持ってきてください！

おいしいパレスチナ

水切りヨーグルトチーズ

「ラバネ」

・調理時間　5 分　･水切り時間　1 日

INGREDIENTS

水切りヨーグルト

- ヨーグルト（無糖）500g
- 塩 3g

仕上げ

- オリーブ 6 個
- EV オリーブオイル 15g
- ピンクペッパー 5 粒
- パセリ（みじん切り）3g

INSTRUCTIONS

水切りヨーグルト

1. ヨーグルトに塩を加え、混ぜる。
2. キッチンペーパーやガーゼをザルにかぶせ、ヨーグルトを流し込み、冷蔵庫で 1 日水切りする。

仕上げ

1. 水切りできたら、お皿に盛り付け、真ん中にくぼみを作り、EV オリーブオイルをかける。
2. オリーブ（割って入れる）、ピンクペッパー、パセリを盛り付けて完成。

NOTES

- 水切りした後の液体（ホエー）にも栄養がたっぷり入っているので、スープやレモネードなどに活用できます。
- 完成したラバネは、ピタパンやバゲット、野菜（ルッコラ、きゅうり、セロリ）にたっぷり塗ったり、焼いた鶏肉の付け添えにもオススメです。
- 日持ちの目安は、冷蔵で 3 日程度、冷凍は出来ません。
-

守ろう！オリーブの木を　カンパのお願い

オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い。
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業労働委員会連合（UAWC)に送ります。

郵便振替
記号番号：００９６０-２-３０３５００番
名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合
店名（店番）：〇九九店（０９９）
預金種目：当座
口座番号０３０３５００

５月１９日、ジェッダでのアラブ連盟首脳会議にシリアのアサド大統領が１２年ぶりに参加した。

今号の内容

孤立するイスラエルと米国・・・・・・・・・・・・1
ナクバから75年・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
レバノン、リッダ闘争５１周年記念式典・・5
リッダ空港作戦の記憶・・・・・・・・・・・7
サウジへ向かう米国人たち・・8
パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・・10
パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・14
おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・15
トピック・・・・・・・・・・・・・・・・・16

５月１８日、エルサレムで入植者たちの旗の行進に抗議するパレスチナの女性たち

６月２０に入植地の近くの給油所で。４人の入植者が、ジェニンでの占領軍による６人のパレスチナ人の殺害への報復として行われ、入植者たちはパレスチナの村々を襲撃し、人々を攻撃し、家などを放火し、車にも火をつけた。

６月２１日パレスチナ人医療関係者が今朝発表したところによると、ジェニンとそのキャンプに対する最近の占領軍の攻撃で、子供の Sadeel Ghassan Naghniyeh（15歳）が頭部を負傷し死亡した。

６月１４日パレスチナ国のマフムード・アッバス大統領は本日水曜日、中華人民共和国の習近平国家主席と会談した。